

調布稲門会 会報

2024.1 第59号

年2回(1月、7月)発行

事務局 石田欽也方

Tel 080-1021-9105

Fax 042-487-6872

E-mail

kishida06080901@gmail.com

URL (HP)

https://tohmonchofu.

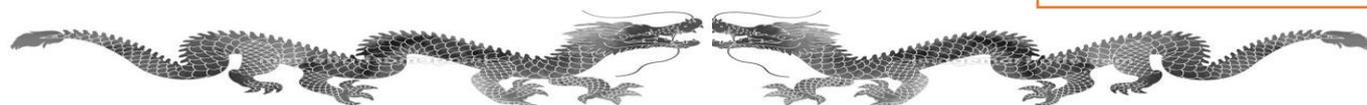
jimdofree.com/

編集責任者 潮田 健太郎



紺 碧

福祉まつりのバザーも再開
イベント満載の秋



秋のイベント報告

観月会参加レポート

新入会員 編集部 高山 真由子 2011 政研

観月会とはどんな会で誰が来るのか、入会后初のイベントのお誘いということもあり未知の扉を開ける不安はありましたが、好奇心が勝ち10月1日にイタリアンレストラン「Barry's」へと足を運びました。会場に入り目に入ってきたのは26名のダンディーなおじさま



ちが談笑する光景でした。女性も新入会員も私1人という状況に一瞬戸惑ったものの、温かく受け入れてくださった皆さんに感謝です。

最年少参加者でもあり、歓談タイムでは若さを武器に各テーブルをまわりおしゃべりやワインを楽しみ、すっかり打ち解けた気がしました。他の皆さんも移動制限のない、そして久しぶりに参加した方と過ごす観月会を楽しまれたようでした。

締め在校歌斉唱は1番しか歌えず、次回までの宿題にしたいと思います。今後も世代や性別関係なく「校友」というご縁で出会えた大切な仲間との交流を



楽しんでいきたいと思えます。次のイベントでは若い世代や女性の方たちとも交流できたらと感じた初陣でした。

2023 稲門祭を訪ねて

山口 泉 1971 商



稲門祭とは、早稲田大学校友会が主催する「早稲田の発展を感じ、学生時代にもどって楽しんでもらう、卒業生のための一大イベント」です。10月23日晴天に恵まれた中、萩原会長とともに稲門祭に行って来ました。

各地稲門会による模擬店での販売、講演会等が開催され、大隈銅像付近では応援部の行進があり、特に早慶戦を前にコンバットマーチによる慶応倒せの予行演習があり、学生時代を懐かしく思い出しました。更に3、4か所での早稲田の名門音楽クラブ(10以上)による演奏会が、訪問客を楽しませていました。筆者が初めて聴いた早稲田交響楽団による重厚な校歌の演奏は、聴衆の合唱が伴って大いに盛り上りました。

又、昼食時に金城庵では、学生時代の懐かしい天丼を求めて行列ができておりました。

皆様も、学生時代の思い出を求めて、来年の稲門祭を訪ねては如何でしょうか。





こくりょう子ども食堂にて

コロナ鎮静化、地域貢献活動再開

実績と今後の展望

会長 萩原稔 1980 教

日頃の稲門会の地域貢献活動にご参加、ご協力いただきありがとうございます。2023年5月、新型コロナの5類移行に伴い、再開された社会活動も多くなりました。稲門会の地域貢献活動は後述の通りですが、継続、新規取組み、再開等活動の幅も広がりました。

食の社会課題の取組みとしてフードバンク調布への協力活動から軸足を移し、嶋田幹事の主宰する「こくりょう子ども食堂」の「わいわいプロジェクト」に新たに参加しました。引き続き稲門会行事と調整しながら計画していく予定です。また、盛況であった福祉まつりについては今回の実績を振り返りながら次回の福祉まつりの参加形式を検討していきます。

個人或いは地域のグループで環境保全、福祉や教育等のボランティア活動に注力されている会員もおられるようで、連携して取り組んでみて良いと思います。

あくまでボランティア活動なので無理はせずに長く活動できればと思います。それを通じて会員同士の親睦や共に集まった地域の皆さんとも交流を深める良い機会に生まれれば幸いです。

地域貢献活動の紹介

こくりょう子ども食堂わいわい・フードパントリー 代表 嶋田浩一 1990 教

こくりょう子ども食堂わいわい

活動開始 : 2017年4月
開催頻度 : 2017年4月～2020年2月4日まで
毎月1回(合計35回)その後、コロナで休止→
「フードパントリー」(後述)へ移行
2023年6月より再開、今年は他に10月・12月
2024年は2月開催予定。その後(2024年度)
は、毎月開催か、隔月開催か、それかを検討中
参加人数 : 2017年647人、2018年792人
2019年837人(以上年間延べ人数)
2023年6月65人、10月94人、12月113人
(以上実数)

活動目的 : 今や『6人に1人は貧困』といわれている時代の中、国領の地域でもそうした家庭環境の子ども達に少しでもおいしい食事を楽しい雰囲気の中で味わってもらうため開設しました。

活動原資 : 開催当日の参加費(子ども50円・大人300円)及びご寄付。食材についても、ほとんどはご寄付。支出は主に『行事保険』。



子ども食堂

フードパントリー

活動開始 : 2020年12月
開催頻度・参加人数 : 2020年12月 215人
2021年12月 194人、2022年6月 225人
2022年12月 242人、2023年8月 214人
活動目的 : 2020年2月まで毎月開催していた「子ども食堂」も、コロナの影響で休止にせざるを得なくなりました。そんな中、何もしない半年が過ぎた頃に誰からともなく「こんな中でも、きっと何かできることがあるはず!」「3年間で築いてきた子ども達との繋がりを断ちたくない!」という声が出てきて、「地域子ども達へのクリスマス企画」としてこの『フードパントリー』の開催に至りました。
活動原資 : 「子ども食堂」と違って支出は格段に多いため、これまで手を付けなかった寄付金(現金)と新たにご寄付を募り充当した。

ボランティア活動へのお誘い

1990年教育卒の嶋田浩一です。皆様とは新年会や総会後の懇親会での『人生劇場』でお馴染みかもしれませんね。普段は国領で「放課後等デイサービス ちょうふの風」という障害児の福祉施設を運営しております。また週末には、同じく国領で「こくりょう子ども食堂わいわい」を主催しています。



今年度より稲門会の地域貢献委員会の活動の一環として、稲門会の皆さんにこの子ども食堂へボランティアとしてご参加いただいております。

これは、それまで「地域貢献活動をやってみたいと思っているけど、ちょっと敷居が高くて・・・。」といった方にもハードルの低い取り組みです。ご興味のある方は、是非ご参加ください

福祉まつり

4年ぶりのバザーに期待と不安 …できて良かった

萩原稔

12月2、3日、第46回調布市福祉まつりが「再開」と「再会」をキーワードに開催され、調布稲門会は3日のバザー



に4年ぶりに参加しました。今回は「コンパクトな形式」としつつ「みんなでやってる感」を目指しました。物集めに奔走せず、たづくりのみんなの広場を受付場所にし、物の種類を絞り残品を極力減らす企画をしました。物品が集まるか、赤字にならぬか心配でしたが、結果的に多からず少なからずの物が集まり、前日の仕分け、値付けも効率よくできました。当日は参加者皆さんの熱の籠った呼び込みと販売トークにより、寄付金11万8253円を社会福祉協議会へ届けました。



提供頂いた分量は従来の半分以下でしたが、初冬に相応しい衣料品やアイデア商品そしてギンナンの飛び入り販売もあり、賑やかな陳列テーブルでした。予想以上の売り上げに安堵し、また何より嬉しかった事はほぼ完売し無駄な廃品が出なかった事です。



物品提供、仕分け、値付け、販売に延べ28名の会員の皆さまにご協力を頂きました。一時保管や作業場所として福祉施設の爽爽荘さんや、物品提供にはケータリングで利用している正直屋さんにもお世話になりました。ありがとうございました。

提供頂いた分量は従来の半分以下でしたが、初冬に相応しい衣料品やアイデア商品そしてギンナンの飛び入り販売もあり、賑やかな陳列テーブルでした。予想以上の売り上げに安堵し、また何より嬉しかった事はほぼ完売し無駄な廃品が出なかった事です。

地域貢献活動

秋の多摩川クリーン作戦

天野 凡子 1981 文

11月12日、今にも小雨になりそうな天候の中、9名が集まり多摩川河川敷の清掃を行いました。長期に渡りこの取り組みに関わっていただいている幹事の関口さんには、大変お世話になっております。市の担当と連絡を取り、最新情報を知らせて下さいます。ご都合がつく時には必ずいらして下さる準会員さんも本当に有難いです。

長友市長もこの運動は多摩川的美観と生態系を守るものであり、これからも人々の憩いの場を大事にしたいとお話されていました。

一旦ゴミが川に入って流れてしまうと更に下流での回収は大変困難なのだそうです。危険な事はせず、川には入れずこの調布で止める事の意味と意義を改めて知る事ができました。

野川クリーン作戦

芦澤友雄 1974 理工

稲門会は毎年参加しており、今年は11月25日に実施、調布稲門会から8名が参加しました。三田会も毎年参加しており、恒例のご挨拶の後、其々分かれて清掃作業に着手しました。

野川は、毎年環境が改善され、大きな鯉や鮒が多数いるだけではなく、鴨の親子連れも確認できるようになりました。畔の道はウォーキングや犬のお散歩コースとして活用され、これも参加者皆様のご協力の成果と嬉しくなります。

40分程度清掃作業を行い、その後、数名で国領

駅近くのファミレスで反省会を行いました。

来年も、皆様ご協力よろしくお願い致します。



同好会活動

ゴルフ同好会

原慎一郎 1981 社学

季節が夏から冬に一気に変わり、秋を楽しむ余裕のない時代に入り最高気温が13℃の曇り空の中、三田会のホームグラウンドである武蔵野ゴルフクラブにて、11月25日、4年ぶりの稲門・三田懇親ゴルフが開催されました



両校各々9名で18名5組のメンバーが集まり和気藹々の中でティーアップとなりました。

コンペは特別ルールとして「ご赦免(斜面ルール)」が適用されました。このルールは急坂・崖からの危険な個所からのプレーを避けるため、近くの安全な場所にノーペナルティでプレイスレプレーできます。

これも対抗戦というより懇親がメインという当コンペの主旨の表れと強く感じました。

とは言え、早慶が集まれば勝ち負けを付けるのが伝統とのこと。

本年度は塾校の甲子園優勝に始まり、六大学野球でも早慶戦での決着での慶応の優勝の流れには勝てず、三田会の圧勝で終わりましたことをご報告しておきます。

テニス同好会

編集部 原田敦夫 1977 法

テニス同好会は、毎週月曜日と金曜日に市営の多摩川コートと深大寺コートでダブルスのプレイを楽しんでいます。参加メンバーの年齢は、下は40代から上は稲門会のレジェンド川島義幸さんの90歳までと大変幅広く、和気藹々とした雰囲気のカークルです。

写真は、12月8日に調布パルコ1FのYOSHIMI



で行われた忘年会の様子です。別々のコートでプレイして会う機会が少ない

メンバーもいて、近況報告や健康法の情報交換などで大変盛り上がりました。毎年暑気払いと忘年会は定期的に行っており、会の終了後は有志によるカラオケの2次会に発展することもあります。

仕事があつて休祭日の月金しか参加できないといった方も大歓迎なので、興味のある方は是非入会をご検討下さい。

麻雀同好会 師走の例会観戦記 世話人石田欽也のつぶやき

石田欽也 1980 商

12月17日(日)

麻雀同好会例会を小島町の「天龍」で開催しました。メンツ不足のため、日頃大変お世話になっていま



す日野稲門会の京極会長にお出ましいいただき、3卓の開催と相成りました。

例会はおおよそ1年ぶりの開催、久々の対局の方が多かったようで、ツモるべきヤマではないヤマから牌をツモる行為が頻発するなど底抜け脱線的なほのぼのとした雰囲気での対局でした。

半荘4回で覇を競い、鏝迫り合いの結果、上位は、優勝萩原氏、準優勝岩崎氏、3位森本氏でした。参加者は皆、賞品の稲門グッズを手に入れました。昭和の時代、早稲田界限は雀荘に溢れ、役満を和了(アガリを意味する)するとビールのサービスを受け、氏名、手役、役満達成年月日をA4大の紙に認めて雀荘の壁に貼ったものですが、雀荘が殆ど無くなってしまった現在、青春のモニュメントが崩れ去った感傷に浸ります。

ところで、「天龍」のマスターのご子息は、我が母校の2年生と伺い、ご縁を感じています。

これからも「天龍」を根城に飲まない、吸わない、賭けない健康麻雀で会員の懇親を図ると共に、

脳の活性化・認知機能劣化予防に努めましょう。



ウォーキング同好会

紆余曲折の二子玉川ブラ歩き 2023/11/19



天野 凡子

実は都内唯一の溪谷を歩く企画をしたのですが、通知段階で、複数の倒木で等々力溪谷が立入禁止に。急遽目的地を隣町、おしゃれ？なイメージの二子玉川に。やはり、街は若い人が大半、我々の様なグループは少数派です。

様々な商業施設、その外側に広がる高層・中層のマンションにはルールなのかベランダに洗濯物はありません。

多摩川の水辺に囲まれ子供がのびのびと遊べる公園の他、多摩川の源流から二子玉川までをテーマとした縮景庭園が美しくまた珍しく楽しめました。帰路は乗り換え無しのバスで。バスを降りるといつもの町。あらゆる年代の方々、人種も年齢も性別も価値観も違う人が共存している多様性を調布駅前広場の明かりに見た気がしました。先の総会で岡村久和講師の「調布はスマートシティ」とのお話を思い出しました。

カラオケ同好会 活動再開



潮田健太郎 1977 理工学院

2019 年末の合同忘年会を最後に、コロナ禍での活動休止を経て、3年半ぶりに活動再開しました。皆さん歌を忘れたカナリアになってしまったのか、参加は5名と少なめでしたが、7月2

日午後3時、いつもの調布サーカスで、2時間ほどカラオケと松野会員のオカリナ演奏を楽しんだ後、「ちび九炉(ちびくろ)」の「お腹いっぱいにならないコース 2H 飲みほ ¥2000」で、日常が戻りつつあることを実感できました。

また、12月16日、これも恒例だった幹事会・カラオケ同好会合同忘年会も再開、「目利きの銀次」カラオケ付き個室で参加者8名でした。

来年はライブ探訪等も企画したいと思っております。

集まり散じてまた集まり 新入会員紹介

池田 知己 1981年 法学部 都立戸山高校
趣味：エレキギターを少々。江戸の街歩き。五街道は全て歩きました。都内のみですが。多くの外国人と接したので民族学に興味あります。「早稲田のスポーツ特にアメリカフットボール、ラグビー、野球、駅伝の応援をライフワークとしています。」

- ・早稲田大学米式蹴球部 OB
- ・パナソニック インパルス OB

ボランティア・ネットワーク Bor・n

発達障害講座 vol.5「想いを形に」レポート



高山 真由子

コロナ禍から4年。今年度から徐々に活動を再開したボランティアネットワーク「Bor・n」が、2023年11月23日にたづ

くり10階で発達障害講座 vol.5を開催しました。「発達障害の子どもたちの理解を深めるために、まず知ることから始めたい。コロナ禍で集う事が難しかったがやっと復活できた」とBor・n代表の坊野さんは冒頭に挨拶し、4年ぶりの再開&再会を喜びました。

今回は起業家・社会福祉士で、障害を持つ子の母である石井文恵氏を講師に迎え、社会の中で障害を抱える子供達が、地域と共に豊かに暮らすための精力的な活動の歩みについて講演しました。石井氏は、親亡き後の長い人生も幸せな生活を送れるように、障害を持つ子供とその家族が安心して住める日本初のサポート付き賃貸住宅「ウイステリアハウス」を江戸川区小岩に建築し注目を集めています。様々な世代や個性を持つ人達が繋がり地域を創っていく“地域共生社会”の原点は住まいにあると考える、石井氏の想いが住宅という形となって間もなく訪れる入居者を待っています。

約30名の参加者の中には、市内の特別支援学校に通う子供や親御さんも多く、石井氏の活動に大きな関心を示していました。

大学在学中、早稲田大学古寺仏研究会に入り、仲間と共に多くの時間を過ごしたことから稲門との繋がりも大きい石井氏の今後の活動が楽しみです。



敬称略 ご本人の希望により記載しない項目もあります

松島 功 1986年 社会科学部 群馬県立桐生高校
趣味：楽器演奏、ラグビー観戦。
大学時代はビッグバンドのサークルでサクスを演奏。ラグビーは中学校からリーグワンまで観ています。今年も早慶戦と早明戦は現地で観戦しました。”

「今年会社を退職して在宅で仕事を始めました。調布に住んで20年以上、これからは地元の皆さんと交流ができれば嬉しいです」

『紺碧』の印刷をさせていただいている 内田平和堂探訪

原田敦夫 1977 法



紺碧を印刷する印刷機と
内田和之専務

時には視野を広げ、調布に縁のある企業や団体など折に触れて紹介する趣向も皆様の興味を引くかなと考えまして、地域に根ざした企業活動を展開し「紺碧」の印刷を永年依頼している印刷会社、内田平和堂を訪ねてみました。その個性的な存在は、調布市の変遷と密接に関わっているときき、歴史を紐解くべく専務取締役の内田和之さんに話を聞きました。



歴史的な「テキン印刷機」
手動で小版印刷用
引出しには活字がぎっしり

旧街道の景色の中に

内田平和堂があるつつじヶ丘の滝坂は、「大雨のとき、雨水が路上を滝のように流れ下ったこと」から命名され、坂の途中には文政13年(1830年)に建立された薬師如来坐像が立っているなど「八王子以東の甲州街道で、旧観を止めている唯一の貴重な場所」と言われています。

江戸期の頃から、滝坂の上部には馬宿(人馬ともに泊まることができた宿)の川口屋があり、そのもとには、茶屋、菓子屋、萬屋といった旅人相手の商家が軒を連ねていました。内田家の祖先も饅頭屋を営んでいたという言い伝えが残っています。現在も内田家を始め、当時の末裔が住んでおり、そのことが滝坂の風情が昔の面影を保っている一因と思われます。

に「戦争のない平和な世の中に」という願いを込めて「内田商店」から「内田平和堂」に改称しました。当初は紙袋や祝儀袋など袋物の販売が中心で、近所の人たちから「袋屋」と呼ばれていたと言いま

す。内田平和堂のロゴマークは「袋屋」を表すフクロウが矢にとまったデザインになっており、歴史を知るとロゴマークの意味も理解できます。

昭和35年(1960年)頃、近くに創業した富士食品工業(現・シダックスグループ)にセールスを行い、名刺など社内の印刷物の多くを受注。会社の成長と共に内田平和堂も忙しさが増し、業務を拡大しました。

今、そして今後の展望は？

現在の印刷業界はイノベーションによる印刷単価の引き下げや、大手印刷会社の情報産業やエレクトロニクス部門などへの進出が目立ち、中小規模の印刷会社には厳しい時代となっています。そのような中でも内田平和堂は、制作から印刷、製本、梱包、発送までを社内で一気通貫できる体制を整え、顧客の細かい要望に応えることを特長としています。

表紙、中紙、留め具などを自分好みを選べるオリジナルノートや、特殊な紙や素材への印刷、自分史や句集の自費出版など、顧客との対話による物作りに大きな可能性を感じていると内田さんは話します。



会社の歴史は？

内田平和堂の前身は大正時代の初め頃に開店した新聞販売店でしたが、内田専務の祖父で創業者の内田忠作氏が、浅草での修行経験を活かし関東大震災後に印刷業も始めました。暫くは2つの事業を並行していたようですが、忙しくなった印刷業1本に絞り、終戦後の昭和24年(1949年)

編集後記

高山真由子

取材編集者という仕事柄、入会后間もなく紺碧編集委員のお役目をいただき、記事執筆2本・取材同行1件と早速走り抜けました。潮田さん・原田さん・谷田さん・私のベテランとフレッシュのマリアージュで紺碧に新しい風を吹き込むべく、4人の知恵を寄せ集め発行の日を迎えることができました。

実は私は調布三田会でも会報誌の編集委員を担当しており、毎回「会報誌早慶戦」が頭の中で繰り広げられることになりそうです。いつか「紺碧を読んでイベントに参加した」といった、文字をきっかけに会員の交流が生まれるようなそんな存在を目指して編集力に磨きをかけていきたいと思います。

会費納入のお願い

令和5年度調布稲門会 年会費お支払いのお願い 会計担当

年会費は会則で7月末までに納入いただくことになります。今般12月20日現在で未納入の方には納入依頼書(リマインド・督促状)を郵送し、1月末までの納入を要請しています。今期分まだ払い込んでない方は次の口座をお願いします。

①ゆうちょ銀行総合口座 記号11300 番号07777481 早稲田大学校友会調布稲門会 ②みずほ銀行調布支店 普通 0997965 調布稲門会

<p>深大寺そば 創業文久年間 ご宴会・俳句会・御法事 元祖 嶋田家 住 所 〒182-0017 東京都調布市深大寺元町5-12-10 電 話 042-482-3578 FAX 042-499-6655</p>	<p>～～個人の方も法人の方も～～ 明石会計事務所 税理士 明石 純一 〒182-0026 東京都調布市小島町2-46-5 電話 042-486-6545 FAX 042-486-6123 https://www.akashi-office.jp</p>	<p>林建設株式会社 取締役社長 林 清一 住 所 〒182-8512 東京都調布市小島町2-56-3 電 話 042-486-1111 FAX 042-486-1120</p>
<p>旭化成建材(株)指定工事店 外壁塗装・屋根塗装 株式会社住まいるスズキ 代表取締役 鈴木 光孝 〒182-0023 東京都調布市染地3-5-65 電 話 0120-080-242</p>	<p>新技術 UV プリント 立体物などにフルカラーでダイレクト印刷 記念の贈答品やオリジナル製品をお求めの方に 名刺・ショップカード・ポストカード 記念誌・自費出版・アルバム等  株式会社 内田平和堂 ☎03-3300-7301</p>	<p>イベント・パーティー (株)正直屋グループ 住 所 〒177-0033 東京都練馬区高野台2-4-27 電 話 03-3909-1171 http://www.shojikiya.co.jp/</p>
<p>相続を争族にしないために、 公正証書遺言をお勧めします。 行政書士堀内総合法務事務所 行政書士 堀内正之 〒182-0035 東京都調布市上石原3-12-8 電話・FAX 042-499-1300 HPは「調布 行政書士 堀内」で検索</p>	<p>舟久保法律事務所 弁護士 舟久保 賢一 住 所 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-8 親和ビル5階 電 話 03-6273-7917 FAX 03-6273-7918</p>	<p>宿泊・宴会・婚礼 調布クレストンホテル 住 所 〒182-0026 調布市小島町1-38-1 調布バルコ8~10F 電 話 042-489-5000 FAX 042-489-1106 http://www.crestonhotel.jp</p>
<p>早稲田大学賛助商議員 調布稲門会 顧問 元 木 勇 自 宅 〒182-0003 調布市若葉町2-22-10 電 話 03-3300-4554 FAX 03-3300-8728</p>	<p>新しい食文化を創る 株式会社山田屋本店 代表取締役社長 秋沢 淳雄 住 所 〒182-0024 東京都調布市布田2-1-1 電 話 042-482-4585 FAX 042-482-4572 http://www.okomekan.net/</p>	